

国際会計論B		講義	教授 安藤 鋭也
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目、会計ファイナ ンスコースの専門選択科目、 教職科目	科目ナンバリング	23220210 25320207

1. 授業のねらい・概要

この授業では、国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards, IFRS）を中心に学修します。IFRSを適用（または適用を検討）している日本企業は200社を超えます。IFRSは海外でも、米国を除く多くの国で適用されています。今や「世界の共通言語」であるIFRSを、出来るだけ分かりやすく丁寧に説明します。

後期の国際会計論Bでは、IFRSの個別の基準・日本基準と米国会計基準の概要及び主な相違点・IFRSの将来像を学修します。IFRSの学び方・基礎知識・概要は、前期の国際会計論Aで学修します。

受講にあたっては、「会計学基礎」「会計学総論」を履修していること、「財務会計論B」を並行履修していることが望ましいです。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とします。同時に、新聞・雑誌などから具体的な事象を取り上げて説明します。いずれにおいても、皆さんの積極的な参加を心から歓迎します。

3. 授業計画

1. ガイダンス、国際会計論Aの振り返り	9. 日本基準(1)概要
2. 第3章 IFRSの概要(7)リース	10. 日本基準(2)IFRSとの主な相違点
3. 第3章 IFRSの概要(8)引当金	11. 米国会計基準(1)概要
4. 第3章 IFRSの概要(9)ストックオプション	12. 米国会計基準(2)IFRSとの主な相違点
5. 第3章 IFRSの概要(10)金融商品	13. 第4章 IFRSの将来像(1)個別プロジェクト
6. 第3章 IFRSの概要(11)法人所得税	14. 第4章 IFRSの将来像(2)経済・社会との係わり
7. 第3章 IFRSの概要(12)企業結合	15. まとめ
8. 第3章 IFRSの概要(13)連結・持分法	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読んできて下さい（30分程度）。また学修内容の定着には復習が不可欠です。前回の授業内容は、配布資料も使って理解に努めて下さい（1時間程度）。もし不明点や疑問点があれば、メールや次回の授業で遠慮なく質問して下さい。一緒に考えましょう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際は、解答のポイントや出題意図を（試験）終了直後に説明します。

6. 授業における学修の到達目標

IFRSの基本的な考え方を理解した上で、IFRSを巡る国際的な動向の概要を把握することが目標です。

7. 成績評価の方法・基準

平常点50%（授業への取り組み姿勢など）および期末テストの結果50%の割合で成績評価を行います。

8. テキスト・参考文献

テキストは、橋本尚・山田義隆（2018）『IFRS会計学基本テキスト（第6版）』中央経済社を使用します。本テキストは改訂される可能性があります。授業では最新版を使用します。参考文献は適宜紹介します。

9. 受講上の留意事項

受講にあたっては、会計の基礎知識を有している方が望ましいです。とはいえ必要不可欠ではありません。IFRS を理解してもらえよう、出来るだけ分かりやすく丁寧に説明します。

ただ授業は積み上げ、内容的には A と B でワンセットです。したがって通年で毎回出席されることをお勧めします。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は、商社（経理部門）における実務経験も活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。